

ピンチヒッター岡崎の中国通信**支付宝、すごい！！****お世話になっております！インド担当オカザキです！**

普段はインドの山を駆けずり回っている私ですが、先日珍しく中国へ行って参りました。そこで中国の驚くべき発展・進歩を目の当たりにし、大変衝撃を受けました。。。皆様にも最新の中国事情をと思いましたので、書かせて頂きます！

皆様は中国の支付宝(アリペイ)という決済サービスをご存知でしょうか。

淘宝网(タオバオ)は中国の最大通販サイトとして、毎年11月11日(独身の日)に行われるイベント時にはとんでもない額が動いており(昨年の流通総額は約1207億元≒1兆8882億円)、日本でもニュースで取り上げられとても有名です。**アリペイとはタオバオを運営する阿里巴巴(アリババ)という中国最大のIT企業が提供している、第3者決済サービスです。**



このアリペイが普及した背景には、中国の困った事情がありました。それはクレジットカードが普及していないということ。これでは商品と代金を直接交換せざるを得ません…しかし、商品にニセモノや不良品が多かったり、代金をだまし取られる

という当時の中国では「絶対にオンラインショッピングは普及しない」とまで言われていたのです。

その問題を解決したのがアリペイでした！！アリペイは、消費者の立場に立ち、消費者と販売者の仲介に立つことで、安心して買ってもらえるように工夫したのです。

① 消費者が自分のアリペイアカウントにチャージ

(コンビニ支払いの他、クレジットカード、銀行カードのひも付けが可能)

② ネットで、消費者が商品を購入

③ 消費者アリペイアカウントからアリペイに支払い

④ アリペイが販売者に連絡

⑤ 販売者が商品を発送

⑥ 消費者が商品の到着をアリペイに報告

⑦ アリペイが販売者に支払い

これにより、商品に不具合があった場合、消費者は支払いを差し止める事が出来ます。また、アカウントに入れたお金はいつでも現金化(銀行口座に入れる)が可能です。そしてなんとと言っても全てのサービスに一切の手数料が掛からず利用できるのです。こうしてアリペイの利用登録者は爆発的に増加し、現在利用登録者はなんと**約 4 億 5000 万人**にも上ります。

そして今回私が一番驚いたのは、アリペイは今や単なる通販用の決済システムではなく、スマートフォンを利用することで実店舗でも決済方法として利用できるようになったという事です。現在、中国の都市部ではコンビニ・レストラン・洋服店な

どはもちろん、小さいタバコ屋やタクシーなどにもこのアリペイのシステムが浸透しているのです。 消費者はスマートフォンアプリで QR コード(バーコード)を提示するだけで、店側がそれを読み取り金額を消費者のアリペイアカウントから差し引きます。割り勘も可能で、一人がお店に対して支払い、金額を設定すると友人に請求が送られ、承認すれば金額が支払った人のアカウントに入ります。



↑写真の左が微信支付用。
中国のお店のレジ付近にはだいたいあります。

←わかりやすく解説したイラストをネットから拝借しました。(笑)

また、これは消費者→店舗の支払いだけでなく個人間のお金のやり取りも可能なのです。お互いがアプリを通して指紋認証やパスワード入力をするだけで、限度額はありますが一定まではお金のやりといをすることが出来ます。中国でよく道端で果物を売っていたり屋台があつたりしますが、そのほとんどがこのシステムに対応しているのが驚きです。↑の写真にもありますが、中国版ライン・微信(wechat)にも同じ機能があり、どちらも対応しているお店がほとんどです。

そして、中国でスタンダードとなっているアリペイは、今や日本にまで浸透し始めています。近年訪日中国人観光客の数が増加し、今年ローソン・ジャパンやセブンアンドアイホールディングスなどコンビニ大手から中国で人気の高い無印良品、三越銀座店も相次いでアリペイに対応を開始すると発表しています。中国人観光客からすれば日本円に換金する手間さえ省けるのですから、これを使わない手はありません。

日本人にとってはEdy、WAON、Suicaなどが現金を必要としない電子マネーとして馴染みがありますが、とにかく種類が多く全て対応しているお店はほとんどありません。アリペイは現在ほとんど浸透していませんが、今後日本人の間でもアリペイ決済という中国スタンダードが浸透していく事も十分に考えられるのではないのでしょうか…。

↓アリペイ対応、日本のユニ○ロにて発見しました。



先月のメルマガでお伝えしていた、石材工場の規制強化について 最新情報です。

外柵や板材などを加工する工場が多い康美地区や晋江地区では地方政府が環境汚染や騒音問題等を理由に、20時30分以降の機械運転を厳禁し、営業認可を得ていない等不備のある工場に対しては完全に操業を停止させる措置を取っているようです。ある工場では環境保護局の目を掻い潜り、12-14時のお昼時や夜中に生産を続けていましたが、職人が捕まり拘留される事態まで起こっている模様です。。。



また、南安市では強制的に操業を停止させられた工場関係者が市政府に対してデモを行って

います。↓つい先日工場から送られてきた動画です。<https://youtu.be/MfIXbyv2FOE>



ある工場長から聞いた話では、墓石・彫刻工場が多く集まる恵安県は外柵・板材工場等がある他の地域に比べ地元政府の協力があるそうです。恵安石材協会は地元政府と協定を定め、土地の借用や営業許可、納税登記がクリーンな工場は保護していく方針との事。中央政府も工場(職人)の数千年続く伝統技術を認めているようで(真偽は定かではありませんが…)、恵安県の工場へは厳しい操業規制などは施されない模様です。

技術や生活が発展していき、工場が淘汰されるのはもはや先進国となった中国にとって避けては通れない道と言わざるを得ません…。その中で生き残る道を模索する工場にいつも協力を頂いている我々も、何か考えていかなくてはなりません。また最新情報が入り次第お伝え致します！

最後まで読んで下さいありがとうございました。また来月まで。

2017/0501 オカザキ